

事業計画書

事業名	入沢災害復旧・復興推進事業	
重点テーマへの該当	有 テーマを記載	「さくの絆作戦」を基礎として地域が防災力を高める取組
	無	
実施箇所		
実施期間	事業開始予定年月日	令和 2年 4月 1日
	事業終了予定年月日	令和 3年 3月10日
	<p><事業の目的> (背景・課題)</p> <p>台風19号の襲来を受け、入沢地区は甚大な被害を受けた。地区の中心を流れる谷川は氾濫し、当地区の象徴であった橋も26本のうち13本が流され、床下55戸、床上10戸が浸水する被害を受けた。主な生活道だった谷川沿いの市道も約1kmにわたり大きくえぐられた他、上下水道や電気等のライフラインもストップした。台風19号の襲来中には、地元消防団と連携して、入沢自主防災会本部の独自の判断で行った早期の避難行動により、多くの区民の命を守ることが出来た。被災後、即座に入沢災害対策本部（以下「本部」という）を立ち上げ、地元消防団と連携しながら地区内の被災状況の調査を行い、安全に通行できる道路や給水所、仮設トイレなどを記した地図の作成など、必要な情報を迅速に区民へ周知するとともに、市や関係機関との連絡調整にも積極的に取り組み、現在はとりあえずの平穏な区民の生活を回復させている。</p> <p>今後も、異常気象等による想像を超えた災害の発生が予想されるため、地域住民の命をまもるための災害に強い地域づくりが喫緊の課題である。そのためには、常日頃からの地域のコミュニティーの維持・向上をすすめ、災害時の助け合いや消防団との連携と地域の防災体制の構築・強化等を図ることが必要である。</p> <p>(取組の必要性)</p> <p>災害に強い地域づくりを推進するためには、地域住民自らが防災について考え、地域コミュニティーの大切さを再認識し、当地域に適した強固な消防団との連携及び防災体制の整備を推進することが必要である。そのためには、区民と消防団員等が参加する復旧、復興、地域づくりに向けた意見交換会等の開催、先進的な事例調査、学習会の実施、台風19号による被災対応の記録の整理とまとめ、防災意識の啓発等が必要である。こうした活動を通じて、地域の絆を深め、次世代へも災害に強い地域を引き継げる生き活きとした地域づくりに取り組む。</p>	

事業概要

<事業の内容>

1 入沢地区の復旧・復興と未来を考える活動

(ア) 目的

入沢地区の復旧・復興と地域の防災力の強化、生き活きとした地域づくりを推進するため、本協議会と区民等参加の意見交換会等を開催する。

(イ) 活動方法等

本協議会 1～2回/月 (参加者：主に本会構成員11名)

区民等参加の意見交換会 4回/年 (参加者：50名：区民希望者)

(ウ) 活動内容

地域内被災箇所の調査、危険個所の整理、防災マップの作成
強固な防災体制の検討と体制づくりなど

2 先進事例地での学び・学習会等の開催

(ア) 目的

地域住民の防災意識の向上と強固な防災体制を構築するための一助とするため、先進事例地で現地を見ながらの学びと防災等に関する学習会等を開催する。

(イ) 活動方法等

先進事例地学習会 1回 (防災対策先進地 (現場) に学ぶ)

(参加者：25名：区役員、消防団、希望者、本会構成員等)

防災学習会等 4回/年 (座学3回、シンポジウム1回)

(参加者：座学：50～100名 (区民、市民等)

シンポジウム：200名程度 (区民、市民、県民等)

3 記録誌の編さん

別紙「入沢地区における台風19号災害に対応した記録誌の編さんについて (素案)」のとおり

<達成目標>

(ア) 入沢区 (R2. 1. 30現在：254世帯 (740人)) の安全で安心した暮らしの確保

(イ) 安全で安心した地域づくり (住みたい地域づくり) 効果による現在の定住者数 (人口) の維持、Iターン者、Uターン者等の地区外者・若者等の移住・定住の可能性の増大

(ウ) 活気にあふれた地域、将来に向けても生き活きとした地域の醸成

(エ) 「さくの絆作戦」の実践

<広報表示の方法 (佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示) >

(ア) 「入沢地区の復旧・復興と未来を考える活動」及び「先進事例地の学び・学習会等」でのレジュメ、資料等の表紙に「佐久市佐久つと支援金」と記載

(イ) 記録誌の表紙に「佐久市佐久つと支援金」と記載するとともに、記録誌の内容の中で「佐久市佐久つと支援金」等を掲載し紹介する予定。

<重点テーマに該当する場合 該当する理由 (アピール) >

令和元年台風19号災害での経験を踏まえ、区と地元消防団等と連携して本事業を実施することにより地域防災力の向上が図れるほか、コミュニティーの機能強化など、将来に向けても生き活きとした地域づくりに結び付くことも期待できる。

年間計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回協議会開催（事業計画の確認、記録紙編さん委員会の発足等について） ● 第2回協議会開催（先進事例調査について） ◎ 記念誌編さん委員会発足
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先進事例地学習会（意見交換会含む） 内容：神城断層地震の経験を活かした自主防災会づくり等の地域防災先進地の取組、意見交換 講師予定者：白馬村 堀之内元区長 鎌倉 宏 氏 先進事例候補地：白馬村堀之内区 参加者：25名（区役員、消防団、希望者、本会構成員等） ● 第3回協議会開催（第1回学習会の開催について） ◎ 記念誌編さんための写真等の収集開始（～8月）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回学習会開催（意見交換会含む） 内容：先進事例地学習会報告、意見交換 参加者：50名程度（区民、市民等） 場 所：入沢集会所 ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第4回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回学習会開催（意見交換会含む） 内容：佐久市の防災対策、意見交換 講師：佐久市 参加者：50名程度（区民、市民等） 場 所：入沢集会所 ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第5回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第6回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回学習会開催（意見交換会含む） 内容：防災訓練の実施、防災体制を考える、意見交換 講師：防災アドバイザー 参加者：100名程度（区民、市民等） 場 所：入沢集会所 ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第7回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第8回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災シンポジウム開催 内容：台風19号災害について、地域防災力の向上、意見交換 講師等：大学教授、防災アドバイザー、佐久市等 参加者：200名程度（区民、市民、県民等） 場 所：あいとびあ白田 ◎ 記念誌編さん委員会開催 ○ 第9回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 記念誌編さん委員会開催 ○ 第10回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 記念誌編さん委員会開催 ● 第11回協議会開催（記念誌、防災マップ、体制等検討）

2月	◎ 記念誌編さん委員会 (記録紙誌納品 (完成)、配布等) ● 第12回協議会開催 (記念誌、防災マップ、体制等検討)
3月	◎ 記念誌編さん委員会 ● 第13回協議会開催 (記念誌、防災マップ、体制等まとめ)

事業内容凡例： ● 1 入沢地区の復旧・復興と未来を考える活動
 ○ 2 先進地での学び・学習会等の開催
 ◎ 3 記録誌の編さん

<p>地域や社会にどのような利益がもたらされるか</p>	<p><「公益性」の視点> (ア) 入沢区 (R2. 1. 30現在：254世帯(740人)) の安全で安心した暮らしの確保 (イ) 安全で安心した地域づくり(住みたい地域づくり) 効果による現在の定住者数(人口)の維持、Iターン者、Uターン者等の地区外者・若者等の移住・定住の可能性の増大 (ウ) 活気にあふれた地域、将来に向けても生き活きとした地域の醸成 (エ) 「さくの絆作戦」の実践</p>
<p>どのような点に独自性や工夫があるか</p>	<p><「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点> 台風19号の襲来中には、入沢自主防災会本部の独自の判断で行った早期の避難行動の実施、被災後は、即座に入沢災害対策本部(以下「本部」という)を立ち上げ、消防団と連携して地区内の被災状況の調査を行い、安全に通行できる道路や給水所、仮設トイレなどを記した地図の作成など、必要な情報を迅速に区民へ周知するとともに、市や関係機関との連絡調整にも積極的に取り組み、区民生活の早期の回復に取り組んだ活動の振り返りを記録誌に編さんするとともに、先進事例調査、学習会・意見交換会の開催等、様々な方法を駆使して防災意識の醸成・向上に取り組む。</p>
<p>市内へどのように取組が波及していくが見込まれるか</p>	<p><「波及効果」や「発展性」の視点> (ア) 記録誌は、入沢区全戸、佐久市役所、佐久地域振興局、佐久市各区、小学校、図書館等へ配布し、市内の防災意識の向上を図るとともに、他地域へ防災体制の参考本となることに期待。 (イ) 防災シンポジウムは、入沢区民以外にも広く参加者を呼びかけ、地域全体の防災意識の向上へ発展させたい。</p>
<p>活動を継続するためにどう取り組むか</p>	<p><「自立性」の視点> 本会は、入沢区会の下部組織であり、「さくの絆作戦」を実行しながら、継続的に地域の防災力の向上に努める。</p>
<p>翌年度以降の活動内容概要</p>	<p>(ア) 自主防災マップの完成、各戸配布 (イ) 谷川の改良復旧工事後のコミュニティーのあり方、再編の検討 (ウ) 再編後のコミュニティーでの防災体制の再構築等</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>コミュニティーの機能(地域住民の助け合い、絆)の強化のほか、強固な防災体制の整備及び防災力の向上による、将来に向けても継続できる生き活きとした地域づくり。</p>

特記事項